

保健-2-①

< 医師用 >

保育園は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発生や流行をできるだけ防ぐことで、子どもたちが快適に生活できるようにすることが大切です。

お子さまが感染症にかかった場合は、医師の診断にしたがい、園での集団生活に適応できる健康状態に回復してから登園するようご理解とご協力をお願いいたします。また、感染症については、かかりつけの医師より登園許可書を記入してもらい、園へご提出ください。

※ 病（医）院によっては、「登園許可書」を記入する際に、文書料として有料となる場合がありますのでご承知おきください。

乳幼児は免疫力も弱く、感染症が悪化した場合は重症化しやすいことから、当園では一覧表にございます感染症に関しましては、医師の許可書をもとに登園していただいておりますのでご協力お願い致します。

<h2 style="margin: 0;">登 園 許 可 書</h2>		
保育所施設長殿		
入所児童氏名 _____		
病名 「 _____ 」		
年 月 日から症状も回復し、集団生活に支障がない状態になったので登園可能と判断します。		
_____ 年 月 日		
医療機関 _____		
医師名 _____		印またはサイン _____

○ 医師が記入した意見書が必要な感染症

感染症名	感染しやすい期間	保育園を休ませる期間
麻疹（はしか）	発症 1 日前から発しん出現後の 4 日 後まで	熱が下がり 3 日経過するまで
インフルエンザ	症状が有る期間（発症前 24 時間から 発病後 3 日程度までが最も感染力が強い）	発症した後 5 日を経過し、かつ解熱した後 3 日を経過するまで（発症した日、解熱した日の翌日を 1 日目とする）
風しん	発しん出現の前 7 日から後 7 日間 くらい	発疹が消えるまで
水痘（水ぼうそう）	発しん出現 1 ～ 2 日前から痂皮形成 まで	全ての発疹がかさぶたになるまで（ワクチン接種している時は新しい発疹が出なくなるまで）
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	発症 3 日前から耳下腺腫脹後 4 日	耳下腺・顎下腺などの腫れが出現した後 5 日を経過し、かつ全身状態が良好になるまで
結核	喀痰の塗抹検査が陽性の間	全身の症状が快直し、主治医の許可がでるまで
咽頭結膜熱（プール熱・アデノウイルス）	発熱、充血等症状が出現した数日間	発熱、咽頭及び結膜の症状がなくなり 2 日経過するまで
流行性角結膜炎	充血、目やに等症状が出現した数日 間	目の充血が消えて目やにがなくなるまで（眼科医の許可が必要）
百日咳	抗菌薬を服用しない場合、咳出現後 3 週間を経過するまで	特有の咳がなくなるまで、又は、5 日間の適正な抗菌剤による治療が終了するまで。
腸管出血性大腸菌感染症（O157、O26、O111 等）	便中に菌が排泄されている間	症状が治まり、かつ抗菌薬による治療が終了し、48 時間以降の検便により菌が陰性と確認されるまで

<保護者用>

保育園は乳幼児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団発生や流行をできるだけ防ぐことで、子どもたちが快適に生活できるようにすることが大切です。お子さまが感染症にかかった場合は、医師の診断にしたがい、園での集団生活に適応できる健康状態に回復してから登園するようご理解とご協力をお願いいたします。

乳幼児は免疫力も弱く、感染症が悪化した場合は重症化しやすいので早めの受診のご協力をお願いいたします。

<h2 style="margin: 0;">登園届（保護者記入）</h2>	
保育所施設長殿	
入所児童氏名 _____	
病名 「 _____	」と診断され、
年 月 日 医療機関 「 _____	」において
病状が回復し、集団生活に支障がない状態と判断されましたので登園いたします。	
保護者名 _____	印またはサイン _____

○ 医師の診断を受け、保護者が記入する登園届が必要な感染症

感染症名	感染しやすい期間	保育園を休ませる期間
溶連菌感染症	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後1日間	抗菌薬服薬後 24 時間以上経過し、発熱がなくなり通常の食事がとれるようになるまで
マイコプラズマ肺炎	適切な抗菌薬治療を開始する前と開始後数日間	発熱や特有の咳が治まるまで
手足口病	手足や口腔内に水疱・潰瘍が発症した数日間	発熱や口の中の水疱・潰瘍の影響がなく、通常の食事がとれるようになるまで
伝染性紅斑（リンゴ病）	発しん出現前の1週間	体力が回復するまで
感染性胃腸炎 ウイルス性胃腸炎 （ノロ、ロタ、アデノウイルス等）	症状のある間と、症状消失後1週間（量は減少していくが数週間ウイルスを排泄しているので注意が必要）	嘔吐・下痢が治まり、通常の食事がとれ、体力が回復するまで
ヘルパンギーナ	急性期の数日間（便の中に1ヵ月程度ウイルスを排泄しているので注意が必要）	発熱や口の中の水疱・潰瘍の影響がなく、通常の食事がとれるようになるまで
RS ウイルス感染症	呼吸器症状のある間	呼吸器症状が消失し、全身状態が良くなるまで
帯状発疹	水疱を形成している間	全ての発疹がかさぶたになるまで
突発性発しん	発熱している間	解熱し機嫌がよく、全身状態がよくなるまで